

令和6年度 宮城県立山元支援学校の研究概要 ～令和7年1月末現在～

運営委員氏名 (佐藤進美)

研究テーマ	個に応じた指導実践の共有と活用を目指して ～教材・教具の開発と工夫を通して～
研究目標	個に応じた教材・教具の開発や工夫をした事例研究を基に、グループ検討会でその成果や課題を共有・活用し、指導力と専門性の向上を目指す。
研究内容・方法 ・研究計画等	<p><研究内容・方法></p> <p>1 事例研究レポートの作成 対象児童（生徒）を決め「一人一事例」の事例研究を行う。「研究構想シート」を用いてグループ検討会で話し合いを行い、修正を図りながら取り組んでいく。指導実践の経過や結果をまとめて「事例研究レポート」を作成する。担当する児童生徒がいない場合は、教材開発、文献研究等を行う。ファシリテーターは、ファシリテーターとしての資質向上を目指して研修する。主幹、学部主事、あすなろ主任はカリキュラム研究に取り組む。</p> <p>2 グループ検討会 研究を進める単位として、学部や教育部門の垣根を越えた少人数グループを設定する。各グループにはファシリテーターを配置し、学び合いの促進役を担う。教職経験年数や特別支援教育経験年数等を考慮してメンバーを構成する。</p> <p>3 教員間の情報交換と学び合い 以下の研修を設定し、学びを深めたり情報を共有したりする機会とする。 7／31 ASD指導事例発表会 8／29 事例研究中間報告会 2／8 事例研究発表会</p> <p>4 外部専門家、我部の人材、校内マンパワーの活用 外部専門家（臨床心理士や作業療法士、理学療法士）や学校外部の人材、校内の経験豊かな教員からの助言を指導の改善等につなげる。</p> <p><研究計画></p> <p>4月 研究全体会（今年度の方向性の確認） 5月 諸検査法講習会、グループ編成、グループごとの研究・活動（～1月） 7月 ASD指導事例研修会 8月 事例研究中間報告会 2月 事例研究報告会 3月 研究全体会</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>1 研究の経過、成果等</p> <p>①メンバー構成：学部・教育部門、特別支援教育経験年数を考慮して、1グループ5、6名で8グループを構成した。各グループにファシリテーターを1名配置し、学び合いの促進役を担った。ファシリテーターは研究部員のほかに進路指導部長や地域支援部長など特別支援教育の経験が豊かな先生方にその役割を引き受けていただいた。</p> <p>②研究部だより「学び」のひろばの発行：事例研究を進める上で、必要な情報を提供することをねらいとして発行した。主な内容は事例研究の進め方やグループ検討会での話し合いの着地点、特別支援教育に係る情報発信であり、学び合いの活性化につなぐようにした。</p> <p>③グループ検討会（7回）：検討する内容は研究部だよりで周知し、計画的に進められるようにした。活発な話し合いが行われ、真剣な雰囲気の中にも時折笑い声が聞こえることもあった。</p> <p>④教員間の情報交換と学び合いについて：「ASDのある児童生徒の指導事例発表会」では、昨年度の事例研究レポートから、ASDの診断名がある児童生徒を対象とした7名の実践例の発表を聞いた。研修後、「児童生徒の特性や強みを生かして指導していくことの大切さを知った」「指導前後の写真があったので変容がよく分かった」などの感想が聞かれた。また、「事例研究中間報告会」では、各グループのファシリテーターから、それぞれのグループの事例研究について、研究テーマや目的、仮説、開発や使用したい教材・教具の発想や構想を中心に報告し合った。いずれも教員間の情報を共有し、学び合いの場となった。</p>

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。